

**エステル的人生から学ぶ#5**  
**「プリム～神の助け、民のリバイバルの祭り」**  
2022年7月31日メッセージ・ノート

**エスター記に関する私の回想**

- ・ 子どもの頃の思い出
- ・ この書物の構成(復習)

**形勢逆転(8章)**

- ・ (2)王はハマンから取り返した指輪をはずして、モルデカイに与え、即座に総理大臣に任命しました。エステルはモルデカイに、ハマンの財産の管理を一任しました。
- ・ (3) エステルはもう一度王の前に出て…<sup>7</sup> 王は王妃エステルとモルデカイに答えました。「おまえたちユダヤ人に手を下そうとしたハマンを、私は絞首台につるし、家も没収してエステルに与えたではないか。<sup>8</sup>ユダヤ人の件については、私の名を用いて思いどおりの通達を出すがい。王の指輪で印を押すのだ。だれにも有無を言わせないためだ。」
- ・ モルデカイの文章:<sup>11</sup>この通達には、各地のユダヤ人に対し、自らと家族のいのちを守るために武装蜂起すべきこと、また敵には全力を上げて対抗し、その財産を奪ってもかまわないことが記されていました。<sup>12</sup>しかも、全州いっせいに、その決行日は第十二の月の十三日、その一日のうちと定められていたのです。
- ・ モルデカイとユダヤ人の立場の逆転:<sup>15</sup>モルデカイは青と白の王服をまとい、大きな金の冠をかぶり、しなやかなリンネルと紫の外套をひるがえして、王の前から、喜びに沸き立つ群衆であふれる大通りへと、姿を現しました。<sup>16</sup>集まった誇らしげなユダヤ人の間からは、どっと歓声が上がりました。<sup>17</sup>王の勅令が届いたどの町、どの州でも、ユダヤ人の顔は喜びに輝きました。彼らはその日を祝日にして、盛大な祝賀会を開いたのでした。国民の中には、ユダヤ人のふりをする者も大勢いました。ユダヤ人の仕返しを恐れたからです。

**その間の期間～ユダヤ人は何をしたらろうか？悔い改め、断食と祈りからリバイバルが起こった**

**ユダヤ人の勝利(9章)**

- ・ 勢いが変わった:<sup>1-2</sup>いよいよ第十二の月の十三日がきました。王の二つの勅令が発効する日です。この日、ユダヤ人を征服しようと意気込んでいた敵の立場は、全く一変しました。ユダヤ人は自衛のために、全国各地の町々に結集しました。ユダヤ人にあえて手出しする者は一人もいません。全国民がユダヤ人を恐れたからです。<sup>3</sup>諸州の指導者層である総督、役人、従臣たちはみなモルデカイを恐れていたのです、進んでユダヤ人に手を貸しました。<sup>4</sup>今やモルデカイは、宮中で大きな権力を持つようになり、その名声は諸州に鳴り響き、しかも、ますます勢力を伸ばしていたのです。
- ・ ユダヤ人の自衛の姿勢:<sup>5</sup>ユダヤ人は、決起の日がくるといっせいに行動を起こし、片っぱしから彼らの敵を倒していきました…<sup>10b</sup>しかし人々は、(ハマンの)資産には手を出しませんでした…<sup>16</sup>一方、全州のユダヤ人も、シュシャンと同様、自衛のために団結して立ち上がり、敵対する七万五千人を剣にかけましたが、やはり相手方の持ち物には手を出しませんでした。
- ・ プリムの祭り:<sup>20</sup>さてモルデカイは、これらの出来事をすべて記録し、遠い近いには関係なく、全州のユダヤ人に手紙を送りました。<sup>21</sup>モルデカイはこの手紙の中で、第十二の月の末の二日間を祝日と定め、<sup>22</sup>この歴史的な日を記念して断食と贈り物の交換をしようと提唱しました。この日こそ、ユダヤ人が敵の手から救われ、悲しみが喜びに、嘆きが幸福に変えられた日だからです。<sup>23</sup>ユダヤ人はモルデカイの提案どおり、毎年この習慣を守りました。
- ・ プリムはモルデカイ、エステル、そしてユダヤ人全員がこのプリム祭りを創立した(23-32)

エステル時代にもモーセ時代と同じように、神様が働かれて、ユダヤ人を問題から救ってくださった

### 現代のプリム

- ・ エステル記を二日間続けて声を出して読む
- ・ 少なくとも二人の貧しい人にお金を差し上げる
- ・ 一人以上に、二種類の食事のギフトを差し上げる
- ・ お酒付きのご馳走でもてなす
- この祭りは、他の祭りで見ないほど活気と楽しさと楽しさに満ちている。ユダヤ人らしく、自由に過ごす日である。
- また、子供たちは(希望すれば大人も)仮装をする習慣があります。
- プリムの伝統的な食べ物はハマンタッシェン(またはオズナイ・ハマン)で、ケシの実や他の甘いフィリングが入った3角のペストリーです。
- プリムの前日(プリムが日曜日の場合は前日の木曜日)には、エステルの断食を記念して断食をし、神が民を救ってくれるように祈る習慣があります。

### まとめ:

- 私たちの時代にも、神様が働かれて、守って導いてくださっている。ユダヤ人と同じように祈り求めて、自分達の問題を認めて、リバイバルが来るように期待することが大切。
- 神様の働きに気づいて、喜びと感謝をもってそれを祝うこと
- 惜しみなく、貧しい人、弱者のためにサポートを提供すること